

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100013		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホームピアポート千寿苑		
所在地	千葉市中央区問屋町6-4		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	平成23年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公共交通機関から徒歩圏内で、ご家族やご友人が来苑するのに非常に便利な場所にあります。ユニット内に季節の飾り付けをしたり、様々な行事を計画したり、入居されている方と一緒に明るい雰囲気作りを心がけています。館内はバリアフリーなので、入居後に体が不自由になっても、ご希望によってはそのまま継続して生活していただくことができます。デイサービスセンターや特別養護老人ホームが併設されているので、一緒に行事やクラブ活動を行うこともあり、入居後も様々な人と交流を持つことができます。毎年、入居されている方と一緒に外出の計画をし、今年も都市部の利便性を活かして近所のレストランへ外出に出かけたり、電車に乗って上野動物園や浅草寺へ職員と一緒に遊びに行きました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「・・・その人らしい暮らしの中で喜びと自信を育てましょう」というホームの理念を、施設長のリーダーシップのもと、職員全体で実現しようと努力している。たとえば遠出も、単に目的地に行って楽しむというだけでなく、電車を利用することで地域の人たちや駅員の多大な支援を実感することで感謝の気持ちと、社会参加しているという自信を育てようとしている。また施設内の地域交流室を地域の方に開放し、時には利用者も参加してカラオケを楽しむほか、介護について講演会を開催することで積極的に地域とのつながりの強化を図っている。伝統ある「友和会」のグループ施設ということで、職員はプライドを持ち、安心して介護に専念している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも馴染みの環境で、ゆったりと楽しくその人らしい暮らしの中で喜びと自信を育てましょう」という施設理念をユニット内に掲示し、いつでも見られるようにしている。	理念は各ユニット入り口に掲示されており、ユニット会議等で折りにふれて周知されている。居室のインテリア、職員の配備、遠出など常に理念を意識して企画されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のマンションや団体に、地域交流室を会議の場として開放している。また、地域のレストランや商店に、買物や外食で積極的に出かけている。	施設内の地域交流室で介護に関する講演会等を開催したり、近隣のマンションの行事や会議に開放する等、施設を積極的に活用して地域貢献をはかりながらの交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	千葉市で行われる認知症対応型サービス管理者研修で、同じ地域で働く他事業所の管理者候補に向け、当施設の運営やケアの工夫について報告し、運営に役立ててもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度初めの運営推進会議では、外部評価の家族アンケートの結果を報告し、改善への取組み方法についてご家族に報告した。	昨年度はご家族や民生委員(延べ24人)の参加を得て3回開催している。この中で、運営状況の報告のほか、介護職員が行える医療行為や看取り期の家族協力などのテーマで話し合いが行われ、サービス向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	千葉市GH連絡会の行政との懇談会に参加。また、運営や届出等で不明な点は、その都度市の担当者に相談しながら解決している。	千葉市GH連絡会の世話人として年間10回の会議や懇談会を企画し、ホームの経験によって得られた情報を積極的に発信する等、リーダーとして貢献するとことで市の担当者との信頼関係を構築し、協力関係の強化に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、職員が身体拘束に関する正しい知識を得られるようにしている。玄関の施錠については、ユニットの前に医療材料や薬品を保管している特養医務室があるため、安全のために片方のユニットだけ施錠している。	身体拘束排除に関する県の研修には毎回申し込み、職員の参加を積極的に支援している。参加者は研修で得た知識を施設内伝達研修で共有し、職員全体の理解度を向上させている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、職員が身体拘束に関する正しい知識を得られるようにしている。高齢者施設での虐待についてニュースや新聞で知った時は、ユニット会議で職員に対して注意喚起している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる人の家族には、社会福祉士の職員が成年後見制度の活用について紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学、面接時、体験利用時、入居時と、数回にわたり説明・相談できる機会を作り、利用者や家族の不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のほか、意見箱の設置や千葉市介護相談員の受け入れなど、利用者や家族が意見、要望を言いやすいように努力している。	カラー写真満載の施設だより『九人十色』を毎月発行し、家族に利用者の状況を知らせるなど地道な努力を重ね、ホームへの来訪しやすい雰囲気作りにも努めている。面会時に家族に何でも話し合える関係を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の人事考課の際と、ユニット会議の場で職員の意見や提案を聞くようにしている。	日々の気づきは「申し送り帳」で確認し合い、月に2回のユニット会議等で職員の意見や提案についても話し合い、運営の改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年に2回人事考課を行い、職員個々の努力や実績、各管理者から見た勤務状況を把握できるようにしている。職員がやりがいを持って働けるように、施設内外の研修に参加しやすいように施設が費用を負担したり、業務の中で参加できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を把握し、必要に応じて施設内外の研修に参加させている。未経験者も採用し、業務の中で必要な知識・技術が習得できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会が主催する研修や交流会に参加し、他施設の管理者や職員と交流し、情報交換できる場を持っている。また、併設する事業所と一緒に行事を行い、職員・入居者同士が交流できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接時や体験利用時にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から情報を収集し、安心して生活が始められるよう配慮している。入居後もご本人やご家族から話を聞きながら、グループホームでの生活に早く慣れていただけるよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接時や体験利用時にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から情報を収集し、安心して生活が始められるよう配慮している。入居後もご本人やご家族から話を聞きながら、グループホームでの生活に早く慣れていただけるよう支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、他のサービスの利用の可能性を含め、今後の生活について相談している。また、入居前の体験利用を勧め、その時の様子をふまえ、必要に応じて入居後もグループホーム以外のサービスも利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットの運営にあたり、入居者の方に相談したり、家事を一緒に行ったり、職員が日々の悩みを相談するなど、支えあいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や通院の付き添いをお願いしたり、来苑時に食事の介助をしていただくなど、職員と一緒にご本人を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人に面会協力をお願いしたり、入居間もない人には外出・外泊の協力をお願いし、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	家族が来苑した日や、外泊で住み慣れた自宅から戻ると豊かな表情が見られる。子どもの頃遊んだ馴染みみの場所など、行ってみたい希望地を聞いて、電車や車を利用してそこにお連れするなどして馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う人同士で食事の席が近くなるよう工夫するなど、利用者同士がコミュニケーションをとりやすいように工夫している。話すことが難しかったり耳が遠い人でも、職員が間に入ってコミュニケーションがとれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院している医療機関に面会に行ったり、利用者やご家族と退院後の生活について相談し、必要に応じて関係機関と調整をとっている。亡くなった方のご家族とも、退居後に一緒に振り返るグリーフケアを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の希望を表出することが難しい人がとても多いが、ご本人の表情や行動、ちょっとした一言から希望を推察し、支援できるように配慮している。	普段の表情やことば、動作から推察して本人の思いの把握に努めている。東京センターのひもときシートで学んだことにより、本人の思い・意向の推察が深まり、家族にもよりの確な本人の思いを伝えやすくなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活について、ご本人やご家族、担当していた介護支援専門員から話を伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の様子から、総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の処遇について、ご本人やご家族から希望を伺い、ユニット会議で相談し、介護計画を作成している。現状に変化が無い場合もモニタリングを行い、現在行われているサービスが適当かどうか確認している。	来苑する家族も多く、よく話し合いが持たれている。本人の日々の状態をよく理解している家族の意向を踏まえ、毎日のケア記録をもとに3ヶ月ごとにモニタリングを行い、ユニット会議で話し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録として個別に記録し、介護計画を立てる際の資料として役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望によっては、併設施設のクラブ活動への参加や訪問マッサージの利用、出かけたい場所への外出介助など、その時々ニーズに合わせ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによる歌や踊りを観賞したりし、生活が豊かで楽しいものになるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族で相談し、決めていただいている。通院する際は職員が付き添うか、必要な情報をご家族に説明した上で付き添っていただき、適切な医療を受けられるよう支援している。入居後、施設の往診医にかかりつけ医を変更する場合は、入居前のかかりつけ医から引継ぎが円滑に進むよう配慮している。	入居前からのかかりつけ医受診には家族が対応している。入居時にホームの往診医(週2回)に変更される方も多い。ほかに訪問歯科の治療(週1回)と口腔ケア(月1回)、訪問マッサージ(週1～3回)がある。またホームの職員として看護師を配置し健康管理に配慮するなど医療面の充実を目指している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が利用者の変化に気づいた時は看護師に報告し、必要な対応について指示を受けている。特に変化が無くても看護師により健康管理を行い、早期に変化を発見し、適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は医療機関へ連携シートや看護サマリーを提出し、入院後の治療や看護に役立ててもらっている。入院中も職員が訪問し、医師や看護師と今後の治療や生活に必要なものなどについて相談し、退院後の生活が安心して送れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	元気なうちから看取りに関する希望確認書を提出していただき、重度化した場合や終末期の過ごし方について相談するようにしている。看取り期になった場合はご本人・ご家族と日々の過ごし方について具体的に話し合い、協力できるようにしている。	法人としての基本方針『最後まで安心して千寿苑で過ごしていただく』にもとづいて、21年4月から看取りの体制づくりを整え、看取りに関する希望確認書を取り交わし、利用者・家族の安心を得ている。家族の協力のもと最近4人の方を見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は訓練を行えなかったが、実際に急変の対応があり、職員個々が適切な対応ができた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設や宿直者と協力しながら、消防署の指導のもと、利用者と職員が一緒に参加し、定期的に災害訓練を行っている。	同じビル内の併設介護施設と合同で、消防署指導の夜間を想定した避難訓練と災害時想定自主訓練を実施した。ホームは施設ビルの2階にあるが、全階スプリンクラーが設置され、また避難場所の確保・役割分担など災害時に備えた体制作りがなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録は外部の人から見られないように保管している。失禁して着替えた衣類をそれとわからないように片付けるなど、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。不適切な対応がないように、職員同士も注意し合っている。	利用者は人生の大先輩であるとの気持ちで、その方に合った声かけや言葉遣い、あいさつ、大きな声は慎む、着替え物の片付け方法など、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出しやすいように言葉かけを工夫したり、何か行う際は事前に説明し、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的に何かに参加したりするのではなく、ご本人の希望を伺いながら、ご自分のペースで生活できるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧するのが難しい人の代わりに職員が眉を描いたり、パーマを希望する人のために訪問美容院を依頼したり、ご本人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けができる人には一緒に行っている。食事が楽しみなものになるよう、献立で嫌いな物の代わりに別の物を提供したり、パンと米飯を選べたり、誕生日会のときは厨房に依頼してオードブルを提供している。	状態にあった食態や食べ方の順序、食事の介助など本人によりよい方法での食事を提供している。誕生会にはオードブルの用意や、歩いて近くのファミレスで外食をしたりホテルでお茶を楽しむなど、都市部の利便性を活かした支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量が一日を通じて十分な量が確保されているか、毎日チェックしている。一人ひとりの状態に応じて水分にトロミをつけたり、刻み食やペースト食、ゼリー食を提供している。定期的に併設施設の管理栄養士に相談し、十分な栄養が得られているかチェックしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて、ブラッシングのほか歯磨きティッシュを使用して口腔ケアを行なっている。ご自分で義歯の管理ができない人は、夕食後職員がお預かりし、義歯の洗浄を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの1日の排泄パターンを確認し、それに合わせたトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンを把握確認して、夜間はオムツ使用でも立位の出来る方は、昼間はなるべくリハパンを利用してトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行できない人に対しても水分摂取を促したり、食物繊維が多く含まれている捕食を提供するなど、自然な排泄がうながされるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が入浴に介助を要するため、現在は職員が複数いる10時から16時の間に入浴していただいている。その時間帯の中で、一人ひとりに希望を聞きながら入浴していただいている。必要に応じて併設施設の機械浴槽を借りて入浴を行っている。	入浴は週2～3回、職員が複数いる日中の時間帯に希望を聞きながら支援している。状態によっては併設施設の機械浴槽を使用しての入浴支援の方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があれば居室で休んでいただいたり、リビングのソファで休んでいただくなど、思い思いに過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容に変化があった場合は職員が把握できるように申し送りノートに記載し、各自確認できるようにしている。また、薬の情報が載っている資料をファイルに整理し、薬の保管この保存し、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に掃除をしたり洗濯物をたたむなど、日常での役割を持って生活をしていただいたり、心身の状態によりそのような活動が難しい人も、職員と一緒に外出・外食したり、レクリエーションを楽しむなどして生活の中に楽しみをみつけられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体機能的に1人で外出できる人がほとんどいないため、個別にその日の希望で出かけるのは難しいが、午後、職員と一緒に散歩に出かける時間をもうけている。また、希望を聞きながら外出行事を計画し、職員と一緒に外出している。今年も公共交通機関を利用し、都内の寺や動物園などに遊びに行った。	午後の時間帯になるべく、職員と一緒に出かける時間を設け、近くの学校付近の散歩やスーパーでの買い物等外出を支援している。特筆すべきは浅草寺や上野動物園など希望の外出先に、昨年に引き続き普段の暮らしの感覚で、公共交通機関を利用して出かけていることである。	公共交通機関を利用した外出は、ノーマライゼーションの実践という点で高く評価したい。今後是非この取り組みの継続を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には、ご自分で金銭管理を行い、所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から届いた手紙を、文字が読めない人の代わりに職員が読んだり、希望があれば施設の電話をお貸しして、好きなところに電話がかけられるように支援している。また、携帯電話を所持している人の操作を手伝い、好きなところに電話がかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部では季節に合った飾り付けをしたり、不快にならないように掃除をし、快適に過ごせるようにしている。時間帯に合わせて照明やロールカーテンで明るさの調整をしている。	廊下や居間など共有部には、四季折々に季節に合わせた飾り物を配置し、利用者に季節を感じてもらえるよう配慮している。オープンスペースの壁面には随所に絵画が展示され、落ち着いた雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部に自由に使えるソファやテーブル、椅子などを設置し、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地良く暮らせるよう、ご家族にお願いして馴れ親しんだものを置いていただけるように工夫している。	入居前から使用していた筆筒や小物など各居室ごと好みに配置され、生活の継続が図られている。火気と生き物の以外は何を持ち込んでも良いと伝えており、利用者は気兼ねなく愛着のものを身近に置くことが出来、精神的安定にも繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、トイレに可動式の手すりが設置してあるなど、車椅子でも安全に生活出来るように工夫されている。また、自立歩行できる人に対しては、トイレの場所をわかりやすくするための掲示物を工夫したり、ユニット内を歩行中にいつでも休憩できるよう廊下の途中に椅子やソファを置くなど安全に移動できるよう配慮している。		